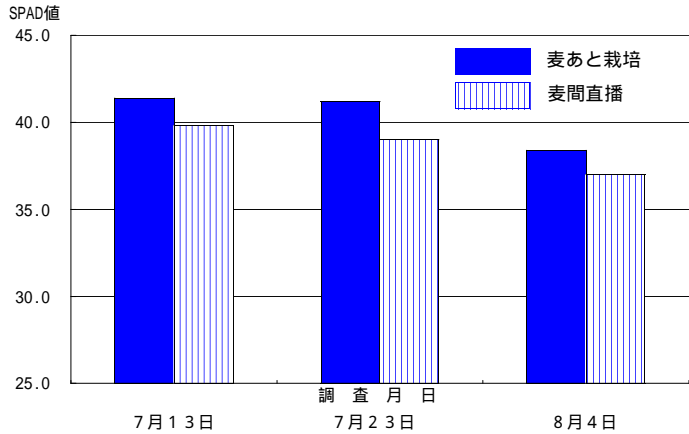


# 飼料イネの麦間直播栽培は イネツトムシの発生を軽減する

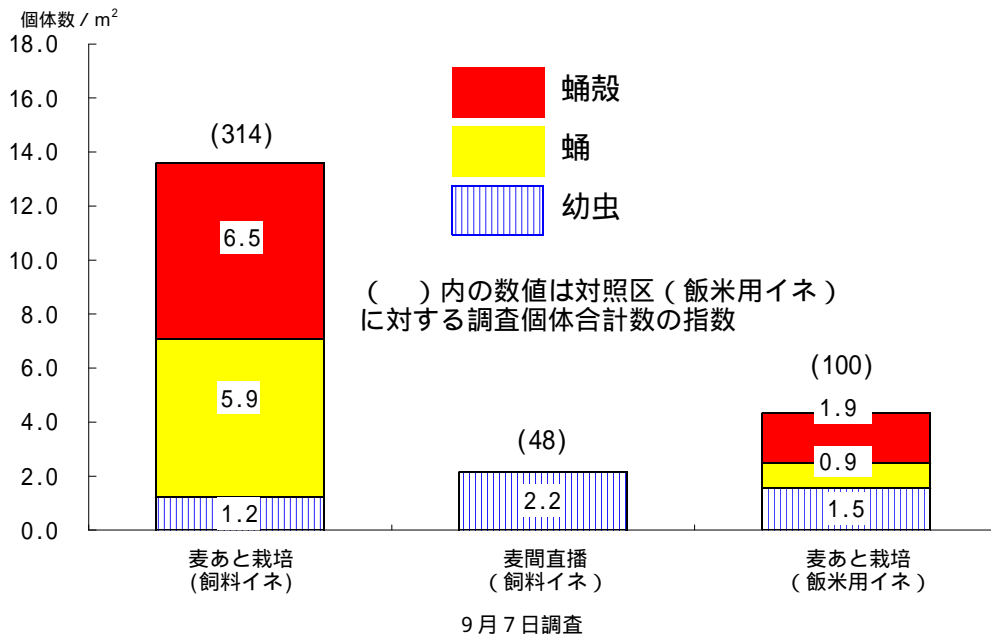
飼料イネは、牛への国産飼料として利用されています。水田の転作作物としての生産が行われていますが、従来の麦あと移植栽培では、イネツトムシ（イチモンジセセリの幼虫）が大発生して葉を食害するため問題になっています。そこで、飼料イネを3月に麦間播種することによって、麦あと移植栽培に比べて発生を大幅に少なくすることができます。殺虫剤を使用しない耕種的害虫防除法として米麦二毛作で活用することができます。



麦あと栽培と麦間直播栽培の葉色値

イネツトムシ（5 齢幼虫）

イネツトムシは、葉の色 (SPAD値) が濃いイネに産卵する。麦間直播の飼料イネは、麦あと栽培（普通移植）よりも葉の色が薄くなる



栽培法とイネツトムシの発生量

麦あと栽培（普通移植）の飼料イネは、対照区の飯米用品種と比較してイネツトムシの発生量が多いが、麦間直播栽培では発生が抑えられる

（農林総合研究センター 生産環境担当 TEL 048-521-5041）

